



# 統計スポット情報

No. 49

13.4.

27 福井県総務部情報政策課

## 日本の所得分配は平等か？

(知って役立つ統計手法

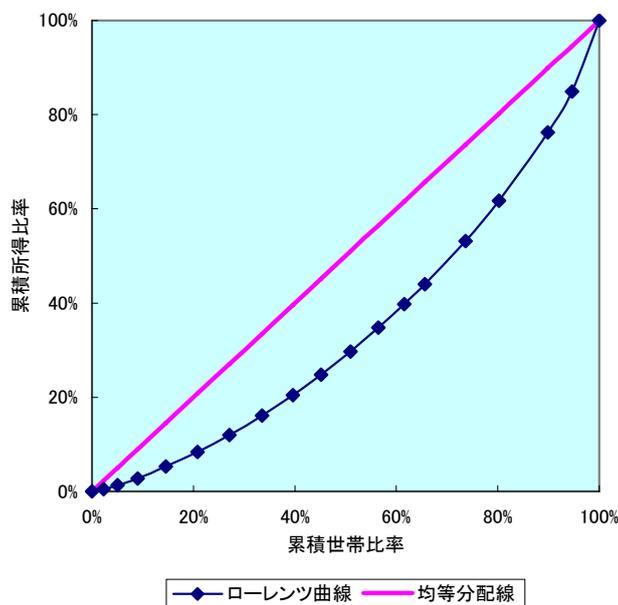
—ローレンツ曲線とジニ係数—)

所得分配や資産分配などの「格差」や「不平等度」を測るための代表的な方法に、**ローレンツ曲線**、**ジニ係数**というものがあります。

『家計調査年報—平成11年—』をもとに、所得分配の状況(全世帯)について、ローレンツ曲線を描いてみましょう。

まず、横軸に所得の低い世帯から高い世帯へと順に並べた累積世帯比率をとります。次に、横軸の累積世帯比率に対応する累積所得比率を縦軸にとり、各座標を図中にプロットしていきます。最後に、各座標をつなぐと、ローレンツ曲線のできあがりです。(図1参照。)

図1 平成11年の年間所得格差



所得分配が完全に平等だとすると、ローレンツ曲線は図1の均等分配線と同じになります。逆に、所得分配が完全に不平等な状態(現実にはあり得ませんが、1つの世帯がすべての所得を独占しているような状態です。)では、ローレンツ曲線は横軸と右縦軸で直角をなす2直

線の形状に極めて近くなります。

したがって、このローレンツ曲線が、均等分配線から離れて下方方向に膨らめば膨らむほど、データの示す格差は大きいということになります。

ジニ係数とは、均等分配線とローレンツ曲線によって囲まれた部分の面積(縦軸、横軸ともに100%を1とします。)を2倍したもので、0から1の間の値をとります。格差が小さいほど0に近づき、格差が大きくなるほど1に近づきます。

先程、平成11年の家計調査に基づき、ローレンツ曲線を描きましたが、この場合のジニ係数は0.305となります。同様に、昭和55年、60年、平成2年および7年についても、ジニ係数を求めますと、表1のようになります。

表1 所得分配に関するジニ係数の推移

|              | ジニ係数  |
|--------------|-------|
| 昭和55年(1980年) | 0.277 |
| 60年(1985年)   | 0.288 |
| 平成2年(1990年)  | 0.291 |
| 7年(1995年)    | 0.300 |
| 11年(1999年)   | 0.305 |

これをご覧いただきますと、昭和55年には0.277であったジニ係数が、次第に上昇していることがわかります。このことは、バブル経済期をはさんで、所得分配の格差が拡大していることを意味しています。

所得分配の格差を国際的に比較した場合、先進国の中でも貧富の差が大きいと思われるアメリカよりも、最近では日本の方がジニ係数が高くなっており、所得分配の不平等度が拡大していると指摘する研究もあります(注)。

ローレンツ曲線やジニ係数は、もともと所得や資産の分配状況を明らかにするために考案されたものですが、他にもいろいろ応用すると、興味深い分析ができそうですね。

(注) 橘木俊詔『日本の経済格差—所得と資産から考える—』岩波書店、1998年、4~8ページ。